



豊かな水資源、自立する経済……。

西条市のもつ潜在力に大きな可能性を感じます。

(相澤学長談)

「世代の方にもメンテナンスなどで活躍する場を提供したいですね。」

学長 モノづくりというのは、決して製造の技術だけで成り立っているわけではありません。原料の調達やメンテナンスなど、製造をとりまくあらゆる工程で良い仕事が行なわれているから、高品質の製品がつくり出される。そこに十分配慮をしてきました。だからこそ、日本のモノづくりは世界をリードするまでになりました。一つひとつ

の部分に英知を積み重ね、それをトータルした総合力がモノづくりを支える財産。冷凍システム開発でも、トータルな視点を見失わないようにすべきです。

市長 その通りですね。他にもご提言がございましたら、ぜひお聞かせください。

学長 教職に身をおく立場として申し上げておきたいのは、やはり人材育成です。地方の自治体には、小中高の教育に力を入れても、卒業と同時に都会に出ていってしまうという難しい問題があります。しかし人づくり

をないがしろにしては地方都市に将来はありません。特に西条市は、モノづくり産業を重要なポジションに位置づけている。モノづくりをきちんと体得した人材の育成が、これからのキーになるでしょう。

市長 教育については、昨年から「12歳教育」を行っています。人生の節目である小学6年生に社会性を養うのが狙いです。また子どもたちに早くから経済の仕組みを実体験させる取り組みも行なっています。夏祭りの夜店で商品の仕入れから販売までを実際に子どもたちにもやってみてもらっています。

学長 家庭まで巻き込み、市長自ら現場に足を運んで、地域社会と一体感をもって取り組む。そうした活動は、今最も必要です。今日の教育問題は、個人と個人の関係性が希薄になっているところ。そこらに問題の本質があります。それを取り繕うために制度をいじるから画一的なことしかできないし、問題の解決にもならない。市長が進めておられることは、とても意義深いことではないでしょうか。

市長 ビジネス実体験学習に参加した子どもたちの感想文を読むと、「お父さんやお母さんは、こんな難しいことをして僕

たちを育ててくれた」、「商売は数字に強くないとできない。明日から算数を勉強します」といった感想を寄せる子どももいます。胸を打たれると同時に、大きな手ごたえを感じます。

学長 私も実は、学生一人ひとりと対話する時間がめつきり少なくなっていることに気付いて、学生と直にふれあう機会を増やすために「学生リーダーシップ賞」を創設したんです。学部ごとに統率力のある候補学生を選抜して、15分間私の前で思う存分自己アピールしてもらっています。将来彼らは、それぞれの方面でリーダーとしての才能を開花させるでしょう。

市長 世界の東京工業大学が、そこまでされているのは驚きです。ちなみに西条市には、まだ大学がありません。しかしモノづくりの現場ならたくさんあります。実践で生きた知識を学べる「フィールド大学」ともいえるべき環境づくりができないか、必死に知恵を絞っているところ

学長 小中高の時代に、地元企業のモノづくりの現場を実体験させるのもひとつの方法かも知れません。モノづくりに励む姿に直接ふれることで、人間形成や職業意識を高めるのに大きな

効果が期待できると思います。**市長** そのアイデアは、ぜひ試してみたいですね。

学長 あるいは企業OBのボランティアを募り、小中高に「出前授業」を派遣しても面白いのでは。小学校では、理科の実験ができる先生がいなくて困っているといっています。

市長 一般に「産学官」の連携といわれますが、私は「学と官」の能動的な連携こそ今必要だと思っています。「学と官」が十分に理論武装した上で、民間企業に手を結ぼうと働きかけ

が実現します。その時には、工業技術研究で世界的な御校とも、ぜひなんらかのかたちで連携させていたいただきたいので、よろしくご指導ください。本日は、ありがとうございました。

